

岐阜大学留学生センターが 日本語・日本文化研修留学生10人による 「日本研究発表会」を開催しました

平成26年8月3日(日)

岐阜大学留学生センターは、岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、岐阜市立図書館との共催で日本語・日本文化研修留学生(日研生)による日本研究発表会を開催しました。日研生は各々の論文を発表し、研修の総仕上げを行いました。

毎年10月から翌年8月までの約1年間、岐阜大学に留学して、主に日本語と日本文化について学ぶ日研生。今年はタイやスウェーデンなど6カ国から留学した10人が、日頃の学習や研究の成果を発揮して、流暢な日本語で論文を発表しました。当日は大学関係者だけではなく一般の方々も多数来場され、熱い拍手と声援が送られました。彼らは8月21日(木)の修了式後に帰国し、母国の大学や教育機関で再び勉学に励んでいます。



災害と多文化共生や言語についてなど、日研生は様々なテーマで研究に挑みました

ルアンシュアムアン・ ジェンチャー さん(タイ)

長良川鵜飼の文化戦略

—ユネスコ「世界無形文化遺産」への登録は可能か—



意識を変えて鵜飼の継承に取り組みば 無形文化遺産登録への道のりは遠くないと実感しました

私の故郷は川が多く、人々は川に囲まれて生活しています。漁業も盛んで様々な漁法がありますが、鵜飼のような漁法は行われておらず興味を持ったため、鵜飼の無形文化遺産への登録が可能かどうかを研究テーマに選びました。まずは市民と鵜飼との関わりについて調査しました。鵜匠や船頭さんへのインタビューも行い、観覧船にも乗って、自然と伝統文化が融合したその素晴らしさを実際に体験しました。その結果、岐阜県や市は鵜飼という伝統文化をととても大切にしていることが分かりました。しかし、その一方で鵜飼を楽しむ人々が年とともに減少していることから、無形文化遺産への登録はまだ時間がかかるという結論に至りました。市民がもっと鵜飼の素晴らしさを理解し、その伝承に協力することができれば、登録への道のりも遠くはないと思っています。

また、留学中には茶道など、多くの日本の文化に触れることができました。この経験を生かし、将来はタイと日本の架け橋になるような仕事に就きたいと考えています。



「日本文化の体験の中でも茶道が一番楽しかった。着物も着られて嬉しいです」と話すルアンシュアムアンさん

ニクラス・ブロムベリ さん (スウェーデン)

日本には「徒弟教育」があるか

—日本の高校教育における企業実習を中心に—



外国の教育や文化をうまく取り入れる 日本の文化に対して理解が深まりました

スウェーデンやドイツなど、ヨーロッパの学校では労働現場で学びながら職業訓練を行う徒弟教育「デュアルシステム」が盛んに行われています。日本でも企業での実習と職業訓練機関での座学を並行的に行う「日本版デュアルシステム」がありますが、賃金をもらいながら学ぶヨーロッパとは違いがあります。この制度内容を比較しようと思ったのが研究を始めたきっかけです。実際にシステムを導入している学校へインタビューに伺い、またスウェーデンに関して研究している他大学の先生にも学び、調査を進めました。その結果、日本版デュアルシステムは完全な徒弟教育ではなく、日本に合うように変化させていることが分かりました。クリスマスなどもそうですが、外国の教育や文化をうまく取り入れて自分たちのものにする、それが日本文化の特徴の一つだと思います。

この研究を通して、日本を知ると同時に、母国の文化や歴史についても改めて興味を持つことができました。将来は日本で教育関連の仕事や研究ができればと考えています。



「研究や授業は大変だったけど、達成感を味わいました」と話すニクラスさんは、大学院へ進むために勉強中

オープンキャンパス2014を開催しました

平成26年8月6日(水)～8日(金)

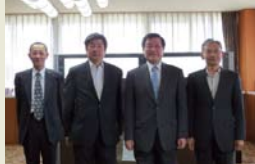
今年も3日間にわたって「オープンキャンパス」を開催し、高校生やその保護者など約5,400人が来校しました。各学部では学科の説明会、模擬講義、体験実習などを実施し、最先端の研究やキャンパスライフを紹介しました。また、岐阜大学のペットボトル水「のみやすい」の販売開始を記念して、工学部棟の前で3,000本を無料配布したほか、学生スタッフによるキャンパス案内や質問コーナーなどの催しも行いました。様々な形で岐阜大学の魅力が伝えられ、盛況のうちに終了しました。多数のご来場ありがとうございました。



連合獣医学研究科が実験動物中央研究所と教育研究連携協定を締結しました

平成26年5月27日(火)

連合獣医学研究科と公益財団法人実験動物中央研究所が、教育研究に係る連携・協力に関する協定を締結しました。この連携協定によって研究科の学生は実験動物中央研究所の客員教員による研究指導を受けることが可能になりました。相互の研究交流を促進することで学術や科学技術の発展への寄与が期待されます。5月27日(火)に本学学長室で調印式を行い、森脇久隆学長、石黒直隆研究科長、実験動物中央研究所の野村龍太理事長、伊藤守副所長が出席しました。



創立65周年記念 岐阜大学創立記念日行事を開催しました

平成26年6月2日(月)

本学は平成26年6月1日(日)に創立65周年を迎えました。6月2日(月)、講堂において創立記念日行事を開催し、学生、卒業生、教職員など約150人が出席しました。「学長報告」では、森脇久隆学長が「学び、究め、貢献する岐阜大学」を実現するための今後の取り組みとして、昨年設置された教育推進・学生支援機構の機能を実質的に高めていくこと、またグローバル化への対応として外国人と日本人が共に学べる環境を整備することなどを挙げました。



岐阜大学図書館本館がリニューアルオープンし、記念式典を挙行了しました

平成26年7月1日(火)

増築改修を進めていた図書館が完成し、記念式典を挙行了しました。式典では森脇久隆学長、福士秀人図書館長、学生代表の工学研究科の岩本直也さんが挨拶を述べ、木村晴茂副図書館長が概要を説明した後、テープカットを行いました。今回の増築改修により、2階には新たにラーニングcommonsを、3階には資料などを持ち込んで学習ができる閲覧コーナーを整備。また、約40万冊以上の収蔵が可能な書庫も設置し、図書収蔵能力の向上を図りました。



岐阜大学「大学西橋」が開通し、開通式典を行いました

平成26年7月14日(月)

東海・東南海・南海の連動型大地震等の大規模災害時に、学生や教職員、近隣住民の方が安全に避難することができるよう、「大学西橋」を設置しました。橋の設置によって医学部・附属病院と本部キャンパスとの連携が密になり、地域住民等学外者の利便性も図られます。開通式典には森脇久隆学長、岐阜薬科大学の勝野眞吾学長、黒野自治会連合会の野々村文彦会長や学内関係者が参加。橋の名称は学生と教職員から公募し、入選者に記念品を贈呈しました。



平成26年度入学式を行いました

平成26年4月7日(月)

長良川国際会議場において平成26年度入学式を行い、学部学生1,382人、大学院学生562人が入学しました。森脇久隆学長は、学部入学生に「どのような分野、対象であれ、『貢献できる人材になる』という志を抱いてほしい」と告辞を述べ、大学院入学生を「高度職業人として将来を見つめ、夢を持続してほしい」と激励しました。学部入学生代表の医学部の相崎友宏さんは「たくましく生きていく力を育みたい」と、大学院入学生代表の応用生物科学研究科の秋吉由佳さんは「高度で専門的な知識と技術の習得に励みたい」と宣誓しました。



複合材料研究センターがフランスの複合材クラスターと学術交流に関する覚書を締結し、調印式が行われました

平成26年3月13日(木)

名古屋を中心とする経済圏、グレーター・ナゴヤにおける複合材関連3機関(名古屋大学ナショナルコンポジットセンター、岐阜大学複合材料研究センター、金沢工業大学革新複合材料研究開発センター)と、EMC2クラスター、IRTジュール・ヴェルヌとの間で覚書を締結しました。この覚書に基づき、今後は研究者の交流に加えて、共同研究や国際研究会議、シンポジウムなどを行う予定です。3月13日(木)にパリで開かれたJEC Europe 2014(欧州複合材料展2014)の会場で調印式が行われました。

インフラマネジメント技術研究センターの表札上掲式を行いました

平成26年4月1日(火)

岐阜大学では道路や橋などのインフラストラクチャーの維持管理に必要とされる、高度な専門知識を持つ土木技術者「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)」を育成するため、平成20年に「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」を設立しました。平成25年度までに計10回のME養成講座を開催し、189人のMEを輩出。平成26年4月からは「岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター」へと組織変更を行い、4月1日(火)に表札上掲式を行いました。



第6回学生金型グランプリで金型創成技術研究センターが金賞受賞

平成26年4月17日(木)

インテックス大阪で開催された第6回学生金型グランプリ(日本金型工業会主催)に、金型創成技術研究センターの学生が出場し、プラスチック金型部門で金賞を受賞しました。この大会は大学等で金型を学ぶ学生が「同じ製品を成形する金型」を開発して競い合うもの。プラスチック金型部門では、日本と中国の6大学が「5×1インチ連結式三角スケール」を開発。平成25年度の4年生8人が5カ月をかけて製作した製品が、高効率な生産が可能となる金型構造として高く評価されました。



第40・41回岐阜大学フォーラムを開催しました

平成26年5月20日(火)・6月2日(月)

一流の研究者や企業人を招く「岐阜大学フォーラム」。第40回では公益財団法人先端医療振興財団臨床研究情報センターのセンター長兼研究事業統括で、京都大学名誉教授の福島雅典氏が「アカデミックリサーチオーガニゼーション(ARO)体制整備の現状と課題」と題して、ライフサイエンス・イノベーション創出の原理と枠組みなどについて話されました。第41回では岐阜県県土整備部長の山本馨氏が「岐阜県の県土整備行政について」と題し、社会資本整備の状況や災害対策などについて講演されました。

